

製本のススメ

Vol. 63

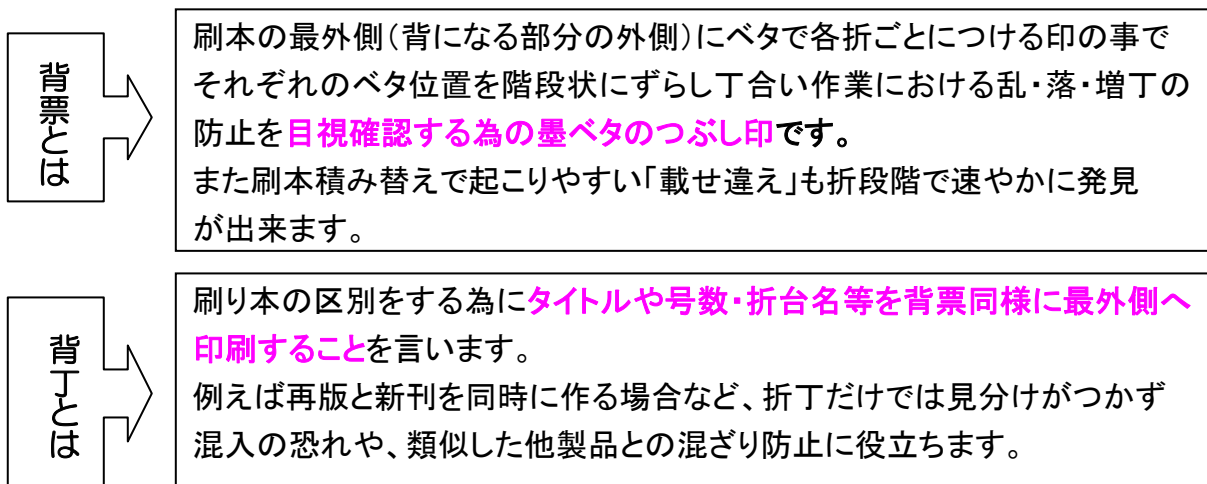
まさに新緑の季節！街にはピカピカの新人達でいっぱいです。新しいランドセルが並んで登校の風景はこの時期ならではのすし、新社会人達にはエールを送りたいですね。みんな頑張れー！

今回も**基本**の話し*3回目*（背票・背丁・前票）

仮にも頁物印刷を手掛ける者として**ぜひとも知って頂きたい**のがこの印です。昨今 製本界では品質管理が厳しくなり、加工ミスを誘発される印刷物は製本しない（或いは料金の割り増し）会社が増えており、当社でも外注先へ加工品を持ち込んだ際に、その場で断られることもしばしばあるほどです。その多くは背丁が無い為で、頁物の加工には**トンボ同様に必要不可欠なもの**です。

背丁の役割は製本加工の不良防止です。短納期を最優先に迫られる製本工程では、一番短縮しやすい工程が【検査】です。各工程が完璧ならば検品の必要は無いはずですが、製本だけが完璧でも印刷までの工程が完璧なのか？となるわけで、一番短縮してはならないのが【検査】なのです。背丁とはこの**検査のスピードアップと不良発見に絶大な威力を発揮**します。

さて背丁(せぢょう)ってナニ？という方のために、背丁と背票(せひょう)の紹介から♪



この二つを総称して背丁と表現をしています。最近ではセンサー機能も良くなりましたが、それでも完璧とはいえません。**作業の要所で目視確認が不可欠**です。物量が大きくなればなるほどこの背丁は有意義となります。

うちは中綴だから、ペラ丁合いばかりだからというなかれ！次回は「天票と前票」のお話しです。